

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2016

課題番号：15K16443

研究課題名(和文) 豊臣秀吉の朝鮮出兵と徳川幕府の朝鮮通信使招聘が齎した日韓武文化交流に関する研究

研究課題名(英文) A study on physical cultural exchange of Japan-Korea, brought by Hideyoshi TOYOTOMI's invasion of Korea and Korean delegation call to Tokugawa Shogunate

研究代表者

李 燦雨(LEE, Chanwoo)

筑波大学・体育系・助教

研究者番号：80709197

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000 円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日韓を取り巻く近世アジア最大の戦争であった豊臣秀吉による朝鮮出兵と、その戦後処理から始まった徳川幕府による朝鮮通信使招聘という、二つの歴史的出来事が齎した武文化の相互伝播と受容に着目した。日韓武道の固有性と相似性の解明に向けた、日韓における武文化交流を実証的に検討することを目的とした本研究では、関連資料分析や現地調査を通じて、朝鮮出兵の際に朝鮮に帰化した日本の武士(降倭)による日本武術、とりわけ剣術の朝鮮伝播と、その後日朝関係回復のため招聘された朝鮮通信使による朝鮮武術、とりわけ馬術の日本伝播の一端が浮き彫りになった。

研究成果の概要(英文)：This research is focusing on the mutual diffusion and acceptance of physical culture, brought by two historical event-Hideyoshi TOYOTOMI's invasion of Korea that was the biggest war in early modern Asia around Japan and Korea, and Korean delegation call to Tokugawa Shogunate that started from the postwar settlement. This study aimed at empirical consideration on physical cultural exchanges of Japan-Korea for unravel the uniqueness and similarity of Japanese-Korean martial arts. Through related materials analysis and fieldworks, it emerged that the Japanese martial arts especially swordsmanship diffused to Korea by Japanese samurai who naturalized into Korea during the invasion of Korea, and Korean martial arts especially equestrian feats diffused to Japan by Korean delegation who invited to restoration of Japan-Korea relationship.

研究分野：スポーツ史

キーワード：曲馬 馬上才 剣道史 日韓武道文化 日韓交流史 武芸図譜通志 朝鮮通信使 降倭

1. 研究開始当初の背景

戦いの力・技を意味する「武」の本質上、隣国との関わりなしに武の歩みを語ることはできない。日本と韓国は地理的・歴史的に最も隣接な国同士である故に、文禄・慶長の役(豊臣秀吉の朝鮮出兵)、日清戦争、植民地合併などの対立と抵抗の過去を通して少なからず武文化交流が行われたと考えられる。しかし、実効性に基づき普及と消滅を繰り返してきた武文化の性質上、その独自性を判断するのは容易ではない。さらに、日韓における対立の歴史は今も両国の間に深い溝を創り出し、韓国における日韓関係史研究は、否定的体験や自己防衛に焦点を絞った民族史観的パラダイムが大勢を占めているため、その真相を見極めるのは一層難しいのである。

また、韓国は遅れた近代化の教訓から戦後徹底した国家政策を通して経済発展を遂げたが、その代償として多くの文化遺産を失った。そのため、地域性や民族の固有性が尊重される時代が訪れると、かつて軽視した伝統文化を蘇らせようとした。しかし、一度失われた文化の復興は至難であり、新たな伝統の創造が試みられている。わずか半世紀前に誕生したテコンドーの歴史を5千年に伸ばしたり、合気柔術が韓国伝統のハプキドーに変容するなど柔道の原形を韓国古代の武術に求めたり、剣道においては、反日イデオロギーに対応するため、用具・形式・用語から脱日本色を試みるだけでなく、剣道の韓国起源説まで主張するなど、抵抗民族主義を積極的に逆利用する新ナショナリズムが展開されている。

ところで、現今の韓国の伝統とされているものが本格的に形成された朝鮮時代や伝統社会から近代に移り変わる植民地期の文献には、朝鮮武文化の代名詞は弓術であることが示されている。そこで研究代表者は、弓術に関する資料発掘調査を進めていくうち、豊臣秀吉の朝鮮出兵の際に1万人以上の日本

武士が朝鮮に帰化し武術師範や国境守備に勤めたが、韓国武道史におけるその影響はどうか帰化した人が誰なのかすら明らかになっていないことが分かった。また、朝鮮の秘密兵器といわれた弓術の伝承が韓国ではほとんど途絶えてしまったのに対し、なぜか日本の弓道の特定の流派の中に伝わっていることや、朝鮮の兵法書に記録されている通りの馬上才が日本の特定の地域で行われているなど、韓国では失われた弓術・馬術文化の一部が現在も日本各地に残っていることが分かった。これは、豊臣秀吉の朝鮮出兵後悪化した朝鮮との関係回復を図った徳川政権による日韓交流、すなわち朝鮮通信使の招聘に徳川幕府が馬上才を正式に要請したことで深く関わっていると考えられる。

日韓交流を語るうえで欠かせない朝鮮通信使に関しては数多くの研究が行われ、日韓交流として広く知られている。学者、軍人、画家、楽士などで構成された朝鮮通信使一行の中で、学者、画家が伝えた儒学・仏教・書道・美術・工芸などは広く知られているが、身体・運動文化に関しては楽士が伝えた唐子踊り以外ほとんど知られていない。つまり、今までの朝鮮通信使研究の対象は朝鮮の「文」の文化であり、朝鮮両班社会のもう一つの軸である武班(武士)が伝えた「武」の文化は、日本でも韓国でもほとんど知られていない。

2. 研究の目的

本研究は、次の二つの課題に取り組み、近世の日韓における武文化交流を実証的に解明し、二つの歴史的出来事が齎した日韓武道の固有性と相似性を見出し、正しい歴史認識に基づいたこれからの日韓交流への示唆を試みるものである。

- (1) 朝鮮出兵の際、朝鮮に帰化した日本の武士(降倭)による日本武術の朝鮮伝播、
- (2) その後、日朝関係回復のため招聘され

た、朝鮮通信使による朝鮮武術の日本伝播を究明する。

3. 研究の方法

(1) 先行研究検討及び史料収集：朝鮮通信使に関する関連資料や先行研究などの2次史料については検討し、それを基に、朝鮮通信使の武に関する1次史料を収集する。また、『朝鮮王朝実録』『承政院日記』『懲毖録』をはじめ文禄・慶長の役に関する日韓史料を収集・分析し、豊臣秀吉の朝鮮出兵の際に誰が朝鮮に帰化し、どのような武術を教えたのか、その詳細を解明する。

(2) 現地調査及び史料発掘：朝鮮通信使との関連性が知られている地域を中心に現地調査を行い、更なる史料を追跡収集・発掘に努め、朝鮮通信使に纏わる武文化を発掘する。

(3) 発掘史料の分析：先行研究で言及された史料や既に発掘した史料に加え、新たに発掘された史料が物語る朝鮮通信使による武文化の真相を導き出す。さらには、朝鮮通信使が通った地域に根差している古武道流派の伝書から朝鮮武文化の影響を探る。また、文禄・慶長の役に関する日韓史料の収集・分析と『武藝圖譜通志』研究の再検討を行い、朝鮮に帰化した日本武士による日本武術の朝鮮伝播を解明する。

4. 研究成果

本研究は、日韓を取り巻く近世アジア最大の戦争であった豊臣秀吉による朝鮮出兵と、その戦後処理から始まった徳川幕府による朝鮮通信使招聘という、二つの歴史的出来事が齎した武文化の相互伝播と受容に着目し、日韓武道の固有性と相似性の解明に向けた、日韓における武文化交流を実証的に検討することを目的として、以下のような研究活動を行い、朝鮮出兵の際に朝鮮に帰化した日本の武士(降倭)による日本武術の朝鮮伝播と、その後日朝関係回復のため招聘された朝鮮

通信使による朝鮮武術の日本伝播の一端を明らかにした。

(1) 先行研究検討及び史料収集・分析：朝鮮通信使に関する2次史料を検討し、膨大な関連資料を収集・整理した。それを基に、通信使の武に関する1次史料の範囲を絞り、その解読と分析に努めた。また、降倭に関する先行研究を検討し、現状把握に努めた。

(2) 現地調査及び史料発掘：朝鮮出兵の際に帰化した武士や朝鮮通信使との関連性が知られている地域とその文化が伝わっている可能性のある地域を中心に現地調査を行い、通信使や降倭に対する総合理解を高めながら、地域に眠っている関連史料の収集・発掘を行った。

(3) 発掘史料の分析：収集した関連史料の中から、日朝の武文化に触れる史料を整理・解読し、既存史料との相互比較検討を行い、朝鮮武術の日本伝播と日本武術の朝鮮伝播の一端を明らかにした。

(4) 情報収集及び成果発表：日本体育学会、体育史学会、筑波大学体育史研究会、朝鮮史研究会、東北アジア体育・スポーツ史学会などの国内・国際学会に参加し、研究協力者との情報交換を行い、また、日本体育学会、筑波大学体育史研究会、東北アジア・体育・スポーツ史学会では研究成果の一部を発表した。現在はこれらの研究成果の更なる発信を心掛けている。

5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 3件)

(1) 李燦雨：16～18世紀における日朝武文化交流について．筑波大学体育史研究会平成28年度研究集会，筑波大学（茨城県つくば市），2017年1月21日

(2) 李燦雨：近世朝鮮式曲馬術「馬上才」の具象 江戸時代における朝鮮通信使関連諸史料の解読を通して ．日本体育学会 66

回大会，国土館大学世田谷キャンパス（東京都世田谷区），2015 年 8 月 27 日

（ 3 ）李燦雨：史料から蘇る幻の朝鮮武芸「馬上才」 - 日本側の史料から見る朝鮮曲馬の残像 - ．東北アジア体育・スポーツ史学会第 11 回大会，釜山（韓国），2015 年 8 月 12 日

6．研究組織

(1)研究代表者

李 燦雨（LEE, Chanwoo）

筑波大学・体育系・助教

研究者番号：8 0 7 0 9 1 9 7